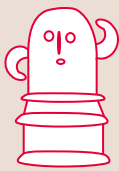




企画展「悠久の“水”戸史—遺跡に刻まれた人と水の歴史—」は、10月16日(土)からだヨ!!!



# 水戸の時空を ひとまたぎ



令和3年10月1日号  
第1511号

第7回

## 旅する黒曜石

石器時代—金属がまだ日本に伝わって  
いなかった時代に、切ったり削ったりする  
ための道具として、人々は石を使っていま  
した。今回は、石器の材料としてよく知ら  
れている石、黒曜石についてお話しします。  
問合せ／埋蔵文化財センター  
(☎269・5090)



たかはらやま  
黒曜石の原石(高原山産)

高原山麓の溪流  
(栃木県那須塩原市)

小刀や矢じりなどの石器には、刃のように鋭く割れる、丈夫な石が選ばれていました。全国的によく使われていたのは黒曜石です。黒曜石は、火山から噴出したマグマが地上で急激に冷え固まってできた、火山岩の一種。ガラス質で加工がしやすいため、当時の人々にとっては非常に魅力的な存在でした。ところが、市内の遺跡から出土する石器で、黒曜石製のものは少数です。一体なぜでしょうか。

その理由は、黒曜石の産地の遠さです。マグマの質や、冷えて岩石になる過程は火山によって異なります。石器を作るのに適した大型の黒曜石が産出する場所は、火山の多い日本列島とはいえ限られてしまうのです。水戸に最も近い産地は、北西約90kmに位置する栃木県の高原山でした。これより質の良い黒曜石を求めると、水戸から西に約210kmの長野県の和田峠まで足を延ばす必要があったのです。

このように、かつて水戸に住んでいた人々にとって、黒曜石は簡単に手に入るものではなく、普段は那珂川や久慈川、大洗海岸などで採集できる岩石を使用していました。産地まで足を運んで黒曜石を持ち帰った人もいたかもしれませんが、ほとんどの場合、他の地域の集団との交流の中で入手していたと考えられます。また、相手の集団も、さらに別の集団から黒曜石を受け取った可能性もあります。水戸で出土した黒曜石は、生まれ故郷の火山から人々の手を渡り、その長い旅路の果てに辿り着いたものなのです。

埋蔵文化財センター

廣松混一

### ダイダラボウのひとりごと ～遺跡はまるで宝石箱!?～

市内の遺跡では、黒曜石のほかにも、いろんな石を使った石器が出土するよ。一番よく目にするのは「チャート」という岩石。これは放散虫というプランクトンの遺骸が海底で固まった堆積岩なんだ。青白いものが一般的だけど、物によっては黒、赤、白と色のバリエーションが豊富な石だね。

「メノウ」は、別の岩石の空洞に二酸化ケイ素という成分が集まってできる鉱物だよ。半透明で白や赤、黄色の物もあつ



て、綺麗な石なんだ。  
この他にもデイサイト、碧玉、頁岩、石英、玉髓、砂岩、安山岩、ホルンフェルス…。紹介きれないくらいいろんな石が使われているんだ。遺跡ってまるで宝石箱みたいだね!



5月号にも登場したダイダラボウH。チョコレートと登山も好きなんだって。

【発行】水戸市 ☎029・224・1111(代表)  
〒310-8610 水戸市中央1-5-1  
ホームページ / <https://www.city.mito.jg.jp>

【編集】みとの魅力発信課 ☎029・224・5188  
☎029・224・5188 kounou@city.mito.jg.jp